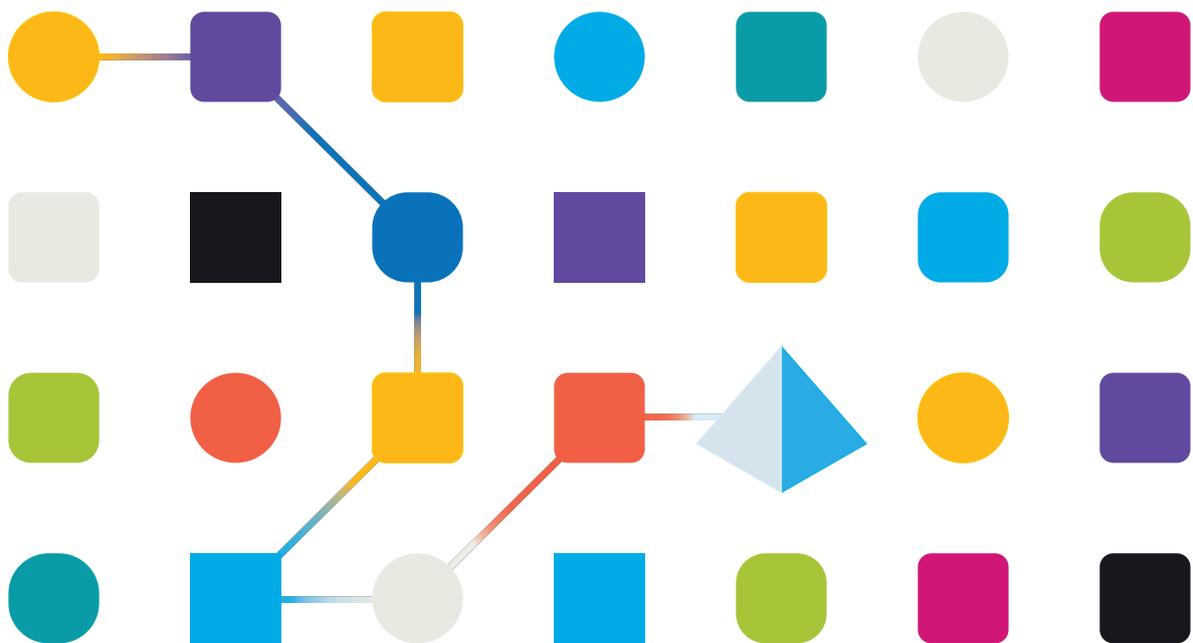


blueprism[®]

Automation Lifecycle Management 4.7

ユーザーガイド

Document Revision: 2.0



商標および著作権

本文書に記載されている情報は、Blue Prism Limitedが独占的に所有する機密情報であり、権限を与えられたBlue Prism担当者の書面による同意なしに、第三者に開示してはなりません。本文書のいかなる部分も、複写機などの電子的あるいは機械的な形式や手段を問わず、Blue Prism Limitedの書面による許可を得ることなく、複製または送信してはなりません。

© 2023 Blue Prism Limited

Blue Prism、Blue Prismのロゴ、Prismデバイスは、Blue Prism Limitedおよびその関係会社の商標または登録商標です。All Rights Reserved.

すべての商標は本文書によって確認され、各所有者のために使用されています。
Blue Prismは、本文書で言及する外部Webサイトの内容に関して、責任を負いません。

Blue Prism Limited, 2 Cinnamon Park, Crab Lane, Warrington, WA2 0XP, United Kingdom。
英国で登録:登録番号4260035。電話:+44 370 879 3000。Web:www.blueprism.com

内容

Automation Lifecycle Management(ALM)	4
概要	4
インストールとアクセス	5
– ビジネスプロセス	6
ビジネスプロセスを追加する	7
ビジネスプロセスを編集する	7
ビジネスプロセスを廃止、復元する	8
ビジネスプロセスを削除する	8
[ビジネスプロセス] ページのフィルターを使用する	9
アプリケーション	11
アプリケーションを追加する	11
アプリケーションを編集する	12
アプリケーションを廃止、復元する	12
アプリケーションに許可を設定する	13
[アプリケーション] 概要 ページのフィルターを使用します。	14
プロセス定義	15
バージョン管理	16
プロセス定義を追加する	17
Capture JSONファイルをインポートする	18
セクション	20
ステップ	21
プロセス定義に例外を追加する	30
プロセス定義のサインオフ	33
その他の機能	36
プロセス定義を削除する	36
[プロセス定義] ページでフィルターを使用する	37
例外	39
例外を作成する	39
デフォルトの例外	39
例外を削除する	40
[例外] ページのフィルターを使用する	40
テンプレート	42
セクションをテンプレートとしてエクスポートする	42
プロセス定義でテンプレートを使用する	43
テンプレートを削除する	43
トリガー通知	44

Automation Lifecycle Management(ALM)

このガイドでは、自動化ライフサイクルプラグインの機能と使用方法について説明します。ALMを活用することで、ビジネスアナリストは、ビジネスプロセスの定義を、該当するアプリケーションやビジネス例外とともにキャプチャして文書化できます。このガイドの一部では、ユーザーはBlue Prism Digital Workerに精通しており、HubやBlue Prismなどのコンポーネントの使用経験があることが前提となります。

概要

Blue Prism Digital Workersは、比類のないスキルと能力を提供し、新しいリリースごとにさらなる使用事例に対応できます。機能も重要ですが、導入サイクルの間使いやすさが同じように検討され、企業はガードレールを提供されてベストプラクティスを確実に満たせるようにします。ロボティックプロセスオートメーション(RPA)とインテリジェントオートメーション(IA)産業にはさまざまな方法論や運用モデルがありますが、これらはドキュメントやトレーニング資料に含まれているのみです。Blue Prism® Hub内のBlue Prism Automation Lifecycle Management(ALM) 機能の開発により、RPA/IAの初期段階にある企業は、アプリケーション主導の制御のメリットを得て、デリバリー成功のための主なマイルストーンを確実に達成できます。

インストールとアクセス

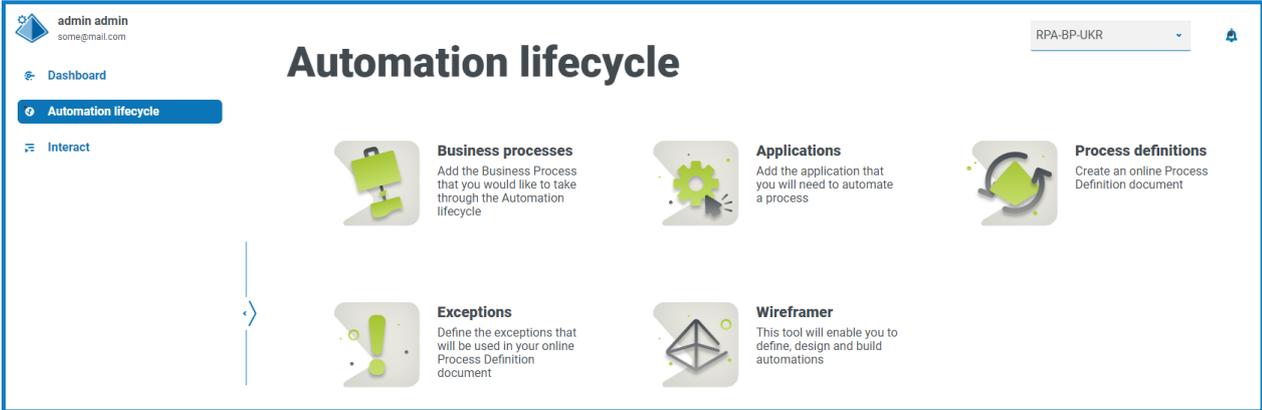
Automation Lifecycle Management (ALM) にアクセスするには、管理者が自動化ライフサイクルのプラグインをインストールする必要があります。

 **Automation lifecycle** Details
Automation Lifecycle Management (ALM) enables you to manage and deploy (using ...
Dependencies: **4.2.0.68**
Connect.Core [4.2.0.68] Version
Connect.Core.Data [4.2.0.68]

プラグインをインストールしたら、そのプラグインを役割に追加し、その役割にユーザーを割り当てる必要があります。プラグインは、必要に応じてデフォルトのユーザーの役割に割り当てるか、カスタムの役割を作成できます。

プラグインのインストールと役割の構成の詳細については、「[Hubユーザーガイド](#)」を参照してください。

ALMには、サイドバーメニューの **自動化ライフサイクル** メニューからアクセスできます。



次のオプションを使用できます。

- [ビジネスプロセス](#)
- [アプリケーション](#)
- [プロセス定義](#)
- [例外](#)
- Wireframerの詳細については、「[Wireframerユーザーガイド](#)」を参照してください。

 Wireframerの全機能を使用するには、Blue Prism 6.4.0以降が必要です。

Automation Lifecycle Management機能の一般的なフローは次のとおりです。

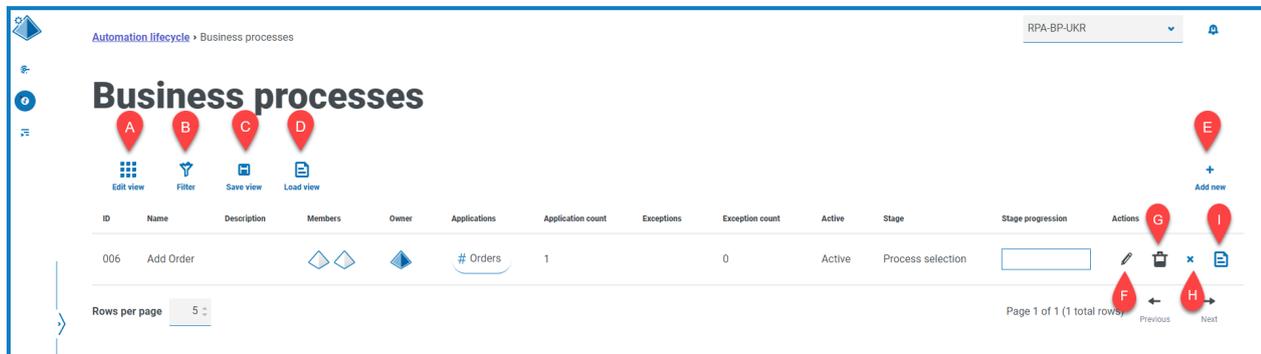
1. 組織のビジネスプロセスを特定し、自動化の候補として適しているかどうかを判断します。
2. これらのプロセスが使用するアプリケーションをキャプチャします。
3. プロセス定義を使用してプロセスを定義します。
4. プロセスの下位ステップをキャプチャします。
5. 1つ以上のビジネスプロセスに適用される可能性のある例外が実行されます。

これは一般的なフローですが、いくつかの項目がキャプチャされ定義されると、ALMでプロセスの一部を再利用できます。これは、共通要素をテンプレートとして定義し、必要に応じて再利用できることを意味します。たとえば、Salesforceのログインプロセスは、新しいユーザーを作成するか、新しいアカウントを作成するかに関係なく同じです。したがって、Salesforceへのログイン用に定義されたプロセスステップをテンプレートとして定義し、両方のプロセスで使用できます。

– ビジネスプロセス

1 [ビジネスプロセス] オプションを使用すると、組織内のビジネスプロセスを定義できます。

ビジネスプロセスの作成後は、ページ上のアイコンを使用して表示、編集、廃止、削除できます。



[ビジネスプロセス] ページには、次の情報と機能が表示されます。

- A. **ビューを編集** – 表示される列を定義します。トグルスイッチを使用して、列を表示または非表示にできます。
- B. **フィルター** – 表示される情報にフィルターを適用します。その後、必要なフィルターをオンにして、表示する適切な情報を入力または選択できます。たとえば、次をオンにできます。 **[アクティブ]** フィルター。デフォルトでは、フィルターはビジネスプロセスのみを表示するよう設定されています。すべてを表示する場合は、**ビジネスプロセスフィルターをすべて]**に変更する必要があります。
- C. **ビューを保存** – 現在の列の設定を保存します。ビューを読み込むときに簡単に識別できるように、ビューの名前を入力できます。
- D. **ビューを読み込む** – 保存したビューを読み込みます。目的のビューを選択し、**[適用]**をクリックします。
- E. **新規追加** – **新しいビジネスプロセス**を追加します。
- F. **編集** – 選択したビジネスプロセスの**詳細を編集**します。
- G. **削除** – 廃止されたビジネスプロセスを**削除**します。このアイコンは、特定の基準を満たすビジネスプロセスを選択した場合のみアクティブになります。
- H. **廃止/復元** – チェックマークを付けると、廃止したビジネスプロセスをアクティブにすることができ、十字を使用するとビジネスプロセスを廃止できます。詳細については、「**ビジネスプロセスを廃止、復元する**」を参照してください。
- I. **表示** – 選択したビジネスプロセスの**詳細**を表示します。

ビジネスプロセスを追加する

1. 自動化ライフサイクル] ページで、**ビジネスプロセス]**をクリックし、**新規追加]**をクリックします。
2. **ビジネスプロセスを作成]** ページの **基本]** セクションで、ビジネスプロセスに関する必要な基本情報を追加します。
 - **ID** – ビジネスプロセスを識別する一意の番号。企業は、財務、販売など、さまざまな部門内のプロセスの識別を支援する独自の識別システムを定義できます。また、組織のプロセス全般にわたって一意の識別を行うこともできます。
 - **名前** – ビジネスプロセスの名前。
 - **説明** – ビジネスプロセスの任意の説明。
 - **ステージ** – ビジネスプロセスの把握に関わるステージ：
 - プロセス選択 (デフォルトオプション)
 - 詳細を調査
 - 設計
 - 開発
 - 内部UAT
 - 外部UAT
 - ライブ証明
 - ライブ
 - **ステージの進行状況** – ステージの進捗度をパーセンテージで設定できるスライダー。
3. **メンバー]** セクションで、ライフサイクル全体を通じてビジネスプロセスの自動化に貢献する主要なステークホルダーを追加します。ビジネスプロセスを作成すると、自動的にメンバーとして追加されます。
4. **ノート]** セクションに、ビジネスプロセスに関する情報を追加します。
5. **ビジネスプロセスを作成]** をクリックします。

ビジネスプロセスが正常に作成された場合は、右上隅に通知が表示されます。

ビジネスプロセスを編集する

 自分で作成したビジネスプロセスのみ編集できます。他のユーザーが作成したビジネスプロセスは読み取り専用です。

1. **ビジネスプロセス]** ページで、目的のアプリケーションの鉛筆アイコンを選択します。
2. 必要に応じて情報を編集します。
3. **保存]** をクリックします。

ビジネスプロセスを廃止、復元する

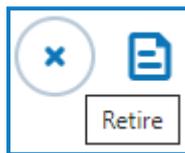
ビジネスプロセスを廃止すると、そのビジネスプロセスに関連するプロセス定義も廃止されます。

1. [ビジネスプロセス] ページで、**廃止/復元** アイコンを選択して、必要なビジネスプロセスのプロセスを廃止または復元します。

プロセスが次の場合：

- ライブの場合は、**廃止/復元** アイコンが十字で表示されます。
- 廃止の場合は、**廃止/復元** アイコンがチェックマークとして表示されます。

2. ビジネスプロセスを廃止するには：
 - a. 十字をクリックします。

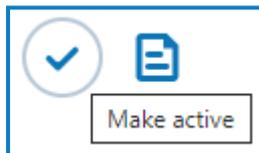


確認を求めるメッセージが表示されます。

- b. **[はい]** をクリックします。

ビジネスプロセスは廃止され、十字はチェックマークに変わります。

3. 廃止されたビジネスプロセスをライブにするには、チェックマークをクリックします。



ビジネスプロセスがすぐに復元され、チェックマークが十字に変わります。

 **[アクティブ]** フィルターを使用して、廃止されたビジネスプロセスのリストをフィルタリングできます。

ビジネスプロセスを削除する

以下に従って、古いビジネスプロセスを完全に削除できます。

- ビジネスプロセスは**廃止**されました。
- ALMプロセス定義やInteractフォームなどのアイテムが添付されていません。ビジネスプロセスにこれらのいずれかのアイテムがある場合は、別のビジネスプロセスにリンクするか、最初に削除してアイテムを削除する必要があります。
- ビジネスプロセスの所有者として定義されています。

 ビジネスプロセスを削除すると、そのビジネスプロセスは完全に削除されます。削除されたビジネスプロセスは復元できません。

ビジネスプロセスが削除可能である場合は、**削除** アイコンが青色で表示されます。アイコンが灰色の場合は、上記の基準が満たされていないことを示します。

 **[アクティブ]** フィルターを使用して、廃止されたビジネスプロセスを検索できます。

ビジネスプロセスを削除するには：

1. ビジネスプロセスの行で、**削除** (ゴミ箱) をクリックします。
ビジネスプロセスの削除を確認するメッセージが表示されます。
2. **[はい]** をクリックして、ビジネスプロセスを完全に削除します。

ビジネスプロセス] ページのフィルターを使用する

フィルターを使用すると、選択した条件に基づいて特定のビジネスプロセスや類似のプロセスを簡単に検索できます。

1. [ビジネスプロセス] ページで、**フィルター** をクリックして **フィルター** パネルを開きます。
2. 切り替えを使用して必要なフィルターをオンにし、情報を入力して必要なビジネスプロセスを見つけます。同時に複数のフィルターを適用できます。

使用可能なフィルターは次のとおりです。

フィルター	説明
ビジネスプロセス	<p>ドロップダウンリストから、表示するビジネスプロセスを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネスプロセス – 自分がオーナーまたはメンバーであるビジネスプロセスを表示します。 • すべてのビジネスプロセス] – 利用可能なすべてのビジネスプロセスを表示します。 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> デフォルトでは、ビジネスプロセス] フィルターはすでにオンになっており、ビジネスプロセス] に設定されています。</p> </div>
ID	ビジネスプロセスの識別子の全体または一部を入力します。
名前	ビジネスプロセスの正式名または部分名を入力します。
説明	ビジネスプロセスの説明のテキストに対して検索する用語を入力します。
メンバー数	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名の一部を入力します。
所有者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名の一部を入力します。
アプリケーション	アプリケーションの正式名または一部を入力して、その アプリケーション にリンクされたビジネスプロセスを表示します。
アプリケーション数	数値範囲を入力します。設定された数のアプリケーションにリンクされているビジネスプロセスを表示するには、両方のフィールドに同じ数を入力します(例:1)。
例外	例外の正式名または部分名を入力します。
例外数	数値範囲を入力します。特定の数の例外にリンクされているビジネスプロセスを表示するには、両方のフィールドに同じ数を入力します。たとえば、「10」を入力します。
アクティブ	<p>次のオプションから、ビジネスプロセスのステータスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ – アクティブなビジネスプロセスを表示します。これらは、廃止されていないプロセスです。 • 廃止 – 管理者が廃止したビジネスプロセスを表示します。

フィルター	説明
ステージ	ドロップダウンリストからステージを選択します。使用可能なオプションは、ビジネスプロセスの追加時に使用可能なオプションと同じです。詳しくは、「 ビジネスプロセスを追加するページ7 」を参照してください。
ステージの進行状況	ステージ進行率を反映する数値範囲を入力します。たとえば、最初のフィールドに「0」、2番目のフィールドに「50」と入力すると、50%未満のすべてのステージ進行率を表示します。

[ビジネスプロセス] ページの情報は、すぐにフィルターされます。

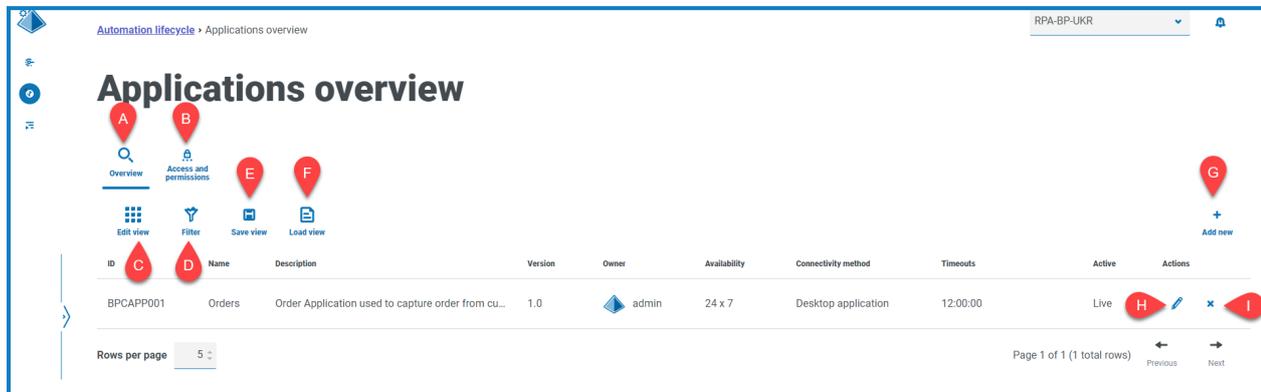
 フィルターを設定済みで、フィルタリングされていない情報を再度表示する場合は、必要なフィルターをオフにするか、フィルター内の設定をすべて削除して空白にします。

3. **ドローを閉じる**] をクリックして、**[フィルター]** パネルを閉じます。

アプリケーション

[アプリケーション] オプションでは、アプリケーションを定義できます。

アプリケーションの作成後は、ページ上のアイコンを使用して表示、編集、廃止できます。



[アプリケーションの概要] ページには、次の情報と機能が表示されます。

- A. **概要** – [アプリケーションの概要] ページにビューを変更します。ALM内で定義されたアプリケーションが表示されます。これがデフォルトのビューです。
- B. **アクセスと許可** – ビューを [アクセス権と許可] ページに変更します。
- C. **ビューを編集** – 表示される列を定義します。トグルスイッチを使用して、列を表示または非表示にできます。
- D. **フィルター** – 表示される情報にフィルターを適用します。その後、必要なフィルターをオンにして、表示する適切な情報を入力または選択できます。たとえば、次をオンにできます。**アクティブフィルター**。
- E. **ビューを保存** – 現在の列の設定を保存します。ビューを読み込むときに簡単に識別できるように、ビューの名前を入力できます。
- F. **ビューを読み込む** – 保存したビューを読み込みます。目的のビューを選択し、**適用**をクリックします。
- G. **新規追加** – **新しいアプリケーション**を追加します。
- H. **編集** – 選択したアプリケーションの**詳細**を編集します。
- I. **廃止/復元** – チェックマークを付けると廃止したアプリケーションをアクティブにすることができ、十字を付けるとアプリケーションを廃止できます。詳細については、「**アプリケーションを廃止、復元する**」を参照してください。

アプリケーションを追加する

1. **自動化ライフサイクル** ページで、**[アプリケーション]** をクリックし、**[新規追加]** をクリックします。
[アプリケーションを作成] ページが表示されます。
2. 次のフィールドを入力します。
 - **ID** – アプリケーションを識別する一意の番号。企業は、財務、販売など、さまざまな部門内のアプリケーションの識別を支援する独自の識別システムを定義できます。また、組織のアプリケーション全般にわたって一意の識別を行うこともできます。
 - **名前** – アプリケーション名。
 - **説明** – アプリケーションのオプションの説明。
 - **バージョン** – アプリケーションのバージョン番号。

- **所有者** – 展開されたバージョンと運用中のバージョンに責任を負う組織内の担当者。これは、ITを監督する個人だけでなく、財務チーム専用のアプリケーションの財務ディレクターである可能性があります。
- **可用性** – アプリケーションの可用性。アプリケーションを常に利用可能にするか、特定の日や時間に制限できます。たとえば、営業日の午前9時から午後5時30分の間のみとします。これは、バックアップとメンテナンス期間がアプリケーションの定義に含まれるようにする際に使用できます。
- **接続方法** – アプリケーションのアクセス方法。以下のオプションがあります。
 - Webアクセス(Internet Explorer)
 - Webアクセス(Chrome)
 - デスクトップアプリケーション
 - Citrix(アプリケーション)
 - Citrix(デスクトップアプリケーション)
 - リモートアプリケーション
 - リモートデスクトップアプリケーション
 - その他
- **タイムアウト** – アプリケーションが使用されなかった場合にタイムアウトし、終了するまでの時間。

3. **アプリケーションを作成]**をクリックして、Hubデータベースに情報を保存します。

アプリケーションが正常に作成されたことを確認する通知が表示されます。アプリケーションが、**アプリケーションの概要]**ページのリストに追加されます。

アプリケーションを編集する

1. **アプリケーションの概要]**ページで、目的のアプリケーションの**鉛筆**アイコンを選択します。
2. 必要に応じて情報を編集します。
3. **保存]**をクリックします。

アプリケーションを廃止、復元する

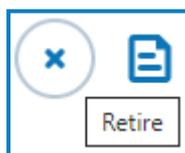
1. **アプリケーションの概要]**ページで、目的のアプリケーションの **廃止/復元]**アイコンを選択します。

アプリケーションが次の場合：

- ライブの場合は、**廃止/復元]**アイコンが十字に変わります。
- 廃止の場合は、**廃止/復元]**アイコンがチェックマークに変わります。

2. アプリケーションを廃止するには：

- a. 十字をクリックします。

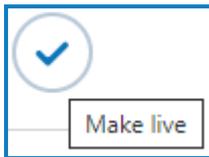


確認を求めるメッセージが表示されます。

- b. **[はい]**をクリックします。

アプリケーションが廃止され、**廃止]**アイコンがチェックマークに変わります。

3. 廃止されたアプリケーションをライブにするには、チェックマークをクリックします。



アプリケーションがすぐに復元され、十字がチェックマークに変わります。



[アクティブ] フィルターを使用して、廃止されたアプリケーションのリストをフィルタリングできます。

アプリケーションに許可を設定する

 オンプレミスバージョンの製品の場合、[アクセスと許可] 機能は動作しません。この機能は、新しいバージョンで再導入されます。

アプリケーションが追加されると、アクセス権を定義できます。

1. [アプリケーションの概要] ページで、[アクセスと許可] をクリックします。
[アプリケーションへのアクセスと許可] のページが表示されます。
2. **新規追加** をクリックします。
[アプリケーションへのアクセスを作成] ページが表示されます。
3. 次のフィールドを入力します。
 - **アプリケーション名** – 定義済みのアプリケーションを選択できます。
 - **統合認証** – Digital Workersに対してシングルサインオンが有効になっている場合は、このオプションを選択します。これによりDigital Workerは、ユーザー名フィールドを入力せずに、アプリケーション内で直接認証できるようになります。
 - **環境** – 生産、開発など、認証情報が適用される環境を選択できます。
 - **Digital Worker** – アプリケーションにアクセスするDigital Workersを選択できます。
 - **有効期限** – パスワードが更新される頻度を定義する期間です。ほとんどの組織では、Active Directoryとグループポリシーを使用してパスワードの有効期限日を定義します。このフィールドは、パスワードの有効期限を通知するために使用されます。
 - **メモ** – アプリケーションのアクセスまたは許可に関する追加情報をキャプチャできます。
4. [アプリケーションプロセスを作成] をクリックします。



機能が動作しないため、このステップを実行できません。

【アプリケーション】概要ページのフィルターを使用します。

フィルターを使用すると、選択した条件に基づいて特定のアプリケーションを簡単に検索できます。

1. 【アプリケーション】概要ページで、【フィルター】をクリックして【フィルター】パネルを開きます。
2. 切り替えを使用して必要なフィルターをオンにし、情報を入力してアプリケーションを見つけます。同時に複数のフィルターを適用できます。

使用可能なフィルターは次のとおりです。

フィルター	説明
ID	アプリケーションの識別子全体または一部を入力します。
名前	アプリケーション名の全体または一部を入力します。
説明	アプリケーションの説明のテキストに対して検索する用語を入力します。
バージョン	アプリケーションのバージョン番号を入力します。部分一致に対してもフィルタリングします。たとえば、「1」と入力すると、フィルターには1.0や10などのバージョンを持つアプリケーションも表示されます。
所有者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名の一部を入力します。
空き状態	アプリケーションの空き状態に一致するように、テキストの全体または部分を入力します。
接続方法	ドロップダウンリストから接続方法を選択します。使用可能なオプションは、アプリケーションの追加時に使用可能なオプションと同じです。詳細については、「 アプリケーションを追加する ページ11 」を参照してください。
タイムアウト	時間範囲を入力します。時刻は、hh:mm:ssの形式にする必要があります。
アクティブ	次のオプションからアプリケーションのステータスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ライブ – アクティブなアプリケーションを表示します。これらは、廃止されていないアプリケーションです。 • 廃止 – 管理者が廃止したアプリケーションを表示します。

【アプリケーション】概要ページの情報 は、すぐにフィルターされます。

 フィルターを設定済みで、フィルタリングされていない情報を再度表示する場合は、必要なフィルターをオフにするか、フィルター内の設定をすべて削除して空白にします。

3. **【ドローを閉じる】**をクリックして、【フィルター】パネルを閉じます。

プロセス定義

ALMの下の **プロセス定義** では、Process Definition Documentとその属性の電子版を作成できます。

プロセス定義は、物理的な文書か電子版かを問わず、ビジネスプロセスの詳細を説明する文書です。Process Definition Documentは、以下で構成してください。

- 全体的なプロセスとソリューションの概要。
- ビジネスプロセス内で使用される一意の言語の定義。
- 自動化で達成すべき範囲と予想。
- ボリューム、毎日実行するこのタスクのインスタンスの数。
- ソリューションが視覚的にどう見えるかを指定するInteractの設計。
- 自動化で連携するアプリケーションのリストとそのバージョン。
- 目標のおおまかなプロセスマップ。
- プロセスの低レベルステップ、キーストローレベルの詳細。
- 自動化に関連する入力、トリガー、出力。
- 例外、想定し対処するさまざまなシナリオ。

プロセス定義は、自動化の開発者の役割のコアツールであり、平均的な自動化と優れた自動化との違いはその正確性と一貫性に表れるため、作業を開始する前に、情報がすべて整っていることを確認します。自動化の構築は、プロセス定義なしで開始すべきではありません。そのため、Blue Prismはこのドキュメントの重要性を強調しています。

ALMの **プロセス定義** ページに、プロセス定義の次の属性が表示されます。

- **プロセス名** - プロセス定義の名前。これはビジネスプロセスから継承されます。
- **バージョン** - プロセス定義のバージョン番号。詳細については、「[バージョン管理 次のページ](#)」を参照してください。
- **更新ノート** - メジャー/マイナーバージョンへの最新の更新が保存されたときにプロセス定義に保存されたノート。
- **更新者** - プロセス定義を最後に更新したユーザー。
- **更新日** - プロセス定義が更新された最新の日付。
- **セクション** - プロセス定義を構成するさまざまなセクション。
- **ロック者** - プロセス定義を現在「開いている」ユーザー(該当する場合)。
- **マイアクセス** - 現在のユーザーがプロセス定義に対して持つアクセス。

デフォルトでは、**プロセス定義** ページに各プロセス定義の最新バージョンが表示されます。すべてのバージョンを表示する場合は、**フィルター**を開き、**最新**フィルターをオフにします。フィルターの詳細は、「[プロセス定義 ページでフィルターを使用する ページ37](#)」を参照してください。

バージョン管理

バージョン管理は、プロセス定義の複数のリリースの作成と管理に使用される方法です。プロセス定義が開発、改良、アップグレード、またはカスタマイズされると、ユーザーはバージョンを保存して特定の時点でのバージョンを取得できます。

マイナーバージョンとメジャーバージョンの2つのバージョンレベルがあります。文書を保存するたびに、プロセス定義のマイナーバージョンが取得されます。所有者または共同作成者のみがメジャーバージョンに更新できます。これは通常、プロセス定義がマイルストーンに到達し、レビュー用に送信されるときに使用されます。バージョン管理の詳細については、「[プロセス定義のサインオフ ページ33](#)」を参照してください。

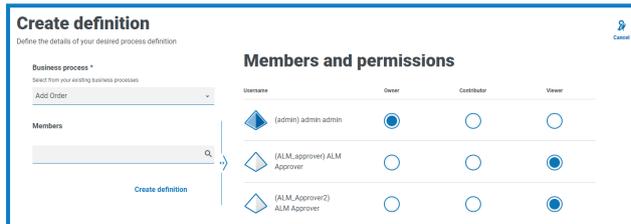
The screenshot displays the 'Process definitions' interface. On the left, there is a sidebar with a 'Filter' icon and a list of categories: 'Production' (selected), 'Templates', and 'Signed off'. The main content area shows a table of process definitions. The table has columns for the process name, version number, owner, and statistics (Sections, Steps, Steps/Section). Two entries are visible: 'Adding product' with version 0.0 and 'Adding orders' with version 0.2. The 'Adding orders' entry is highlighted with a red box around its version number. The interface also includes a 'Rows per page' dropdown set to 5, a 'Page 1 of 1 (5 total rows)' indicator, and 'Previous' and 'Next' navigation buttons.

💡 デフォルトでは、**最新**フィルターがオンになっており、各プロセス定義の**最新バージョンのみ**が表示されません。以前のバージョンは、見やすくするために非表示になっています。**[フィルター]**をクリックしてフィルターを表示し **最新**フィルターをオフにすると、以前に保存したバージョンを確認できます。

プロセス定義を追加する

プロセス定義を作成する前に、ビジネスプロセスを定義する必要があります。詳細については、「[ビジネスプロセスページ6](#)」を参照してください。

1. **自動化ライフサイクル**] ページで、**プロセス定義**] をクリックし、**定義を作成**] をクリックします。
定義を作成] ページが表示されます。
2. **ビジネスプロセス**] ドロップダウンリストから適切なプロセスを選択します。
メンバーと許可] セクションには、選択したビジネスプロセスに割り当てられたすべてのユーザーが表示されます。



メンバー] 検索フィールドを使用して、特定のユーザーを検索できます。ユーザーのリストは、入力と同時にフィルタリングされます。

3. 許可を必要なレベルで設定します。デフォルトでは、作成者が所有者であり、その他のユーザーはメンバーになります。すべての許可を変更できますが、少なくとも1人の所有者を割り当てる必要があります。

アクセスレベル	説明
所有者	<p>このレベルのアクセスでは、ユーザーはプロセス定義の読み取り、書き込み、削除、サインオフの開始を行うことができます。プロセス定義を作成したユーザーには、自動的に所有者の権限が与えられます。具体的には、以下を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定義を編集 – 別のユーザーによってロックされていない場合、ユーザーはプロセス定義を編集できます。 ● メジャーリリースを増やす – プロセス定義のメジャーバージョンをユーザーが増加できるようにします。 ● 表示 – プロセス定義を表示できます。このモードではプロセス定義を編集できません。 ● アクセスコントロールを編集 – 異なるメンバーのアクセス権限を変更できます。メンバーには、アクセス変更についてアラートが送られます。 ● サインオフオプション – 次の3つのオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ● サインオフ用に送信 – プロセス定義をサインオフする必要があることを知らせる通知をメンバーに送信します。 ● サインオフを再編集 – 所有者はサインオフを再編集できます。 ● メンバーのサインオフ – サインオフしたメンバーとサインオフしていないメンバーを表示します。 ● 更新ノートを表示 – 最新の更新ノート、更新日、更新したユーザーを表示できます。 ● 削除 – プロセス定義を以前のバージョンに戻します。一番古いバージョンの場合は、プロセス定義が完全に削除されます。

アクセスレベル	説明
共同作成者	<p>このレベルのアクセスでは、ユーザーはプロセス定義を読み取りおよび編集できます。具体的には、以下が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 定義を編集 – 別のユーザーによってロックされていない場合、ユーザーはプロセス定義を編集できます。 • メジャーリリースを増やす – プロセス定義のメジャーバージョンをユーザーが増加できるようにします。 • 表示 – プロセス定義を表示できます。このモードではプロセス定義を編集できません。 • 更新ノートを表示 – 最新の更新ノート、更新日、更新したユーザーを表示できます。
ビューアー	<p>このレベルのアクセスでは、ユーザーはプロセス定義を読み取りできます。具体的には、以下が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 表示 – プロセス定義を表示できます。このモードではプロセス定義を編集できません。 • 更新ノートを表示 – 最新の更新ノート、更新日、更新したユーザーを表示できます。

4. **定義を作成]**をクリックします。

定義が保存されたことを通知する通知が表示され、**定義を編集]**ページが表示されます。これで、セクションを追加する準備ができました。

Capture JSONファイルをインポートする

Blue Prism® CaptureからエクスポートされたCapture JSONファイルをALMにインポートできます。これにより、プロセスを迅速に転送し、ALMでプロセス定義をさらに定義できます。

Capture JSONファイルから以下の詳細が取得され、プロセス定義の入力に使用されます。

- 支店名
- ステップ番号
- ステップアクション
- ステップメモ
- 境界ボックスと難読化された領域を含む画像
- 決定ステップ(決定ステップごとに最大15のカスタム選択)

Blue Prism® Captureで使用されるアプリケーションのうち、ALMの **[アプリケーション]** ページにまだリストされていないアプリケーションは、インポート時に追加され、名前 (Captureで参照されるアプリケーション名) とIDが自動的に割り当てられます。

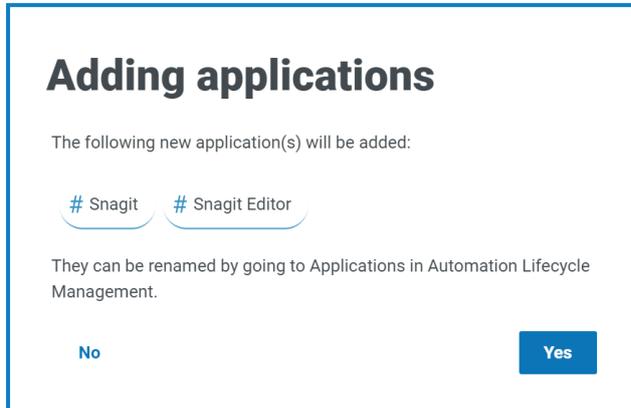
 JSONファイルは、Captureバージョン1.0、2.0、2.1からインポートできます。

Capture JSONファイルをインポートする前に、ビジネスプロセスを定義する必要があります。詳細については、「**ビジネスプロセス ページ6**」を参照してください。

1. **[プロセス定義]** ページで、**[Capture JSONをインポート]** をクリックします。
開く] ダイアログが表示されます。
2. 目的のJSONファイルに移動し、**開く]** をクリックします。

3. プロンプトが表示されたら、**[はい]**をクリックして、Capture JSONファイルで定義されているアプリケーションを追加することを確認します。新しいアプリケーションは **[アプリケーション]** ページに追加され、アクションステップをプロセス定義に追加するときに選択できるようになります。詳細については、「**アクション**」を参照してください。

ALMで定義されていない新しいアプリケーションを追加する場合、プロンプトが表示されるだけです。



 **[アプリケーション]** ページで、インポートしたアプリケーションの名前を変更および編集できます。詳細については「**アプリケーション ページ11**」を参照してください。

定義をインポート] ページが表示されます。

4. **ビジネスプロセス]** ドロップダウンリストから、新しいプロセス定義に関連付けるビジネスプロセスを選択します。
5. 選択したビジネスプロセスのすべてのメンバーに役割を割り当てます。
各役割は、異なるレベルのアクセス権を付与します。詳細については、「**プロセス定義を追加する**」を参照してください。

6. **定義をインポート]** をクリックします。

プロセス定義が作成されたことを示す通知が表示されます。

定義を編集] ページが表示されます。必要に応じて、セクションやアクションステップを編集、追加、削除、並べ替えることができます。「**セクション**」と「**ステップ**」を参照してください。

 画像のアップロードに失敗した場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、影響を受けるステップ番号を書き留め、ステップを編集し、不足している画像を手動でアップロードしてください。

手動でイメージをステップにアップロードするには:

1. **プロセス定義]** ページで **体番]** をクリックします。
2. 関連するプロセス定義に移動し、**オプション]** をクリックしてから **定義を編集]** をクリックします。
定義を編集] ページが表示されます。
3. 目的のステップに移動し、 アイコンをクリックします。
アクションステップを編集] ドロワーが表示されます。
4. アップロード領域に移動します。画像ファイルをアップロード領域にドラッグするか、**アップロード]** をクリックしてコンピューターからファイルを選択できます。
5. **保存]** をクリックします。

セクション

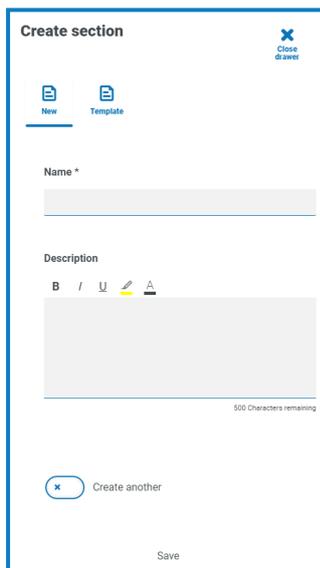
セクションは、アプリケーションの「ログインステップ」などのプロセスの結合部分を説明する一連のステップです。この構造化されたアプローチを使用すると、「再利用可能」セクションを作成でき、テンプレートとして保存して他のプロセス定義で再利用できます。詳細については、「[テンプレート ページ42](#)」を参照してください。

プロセス定義にセクションを追加する

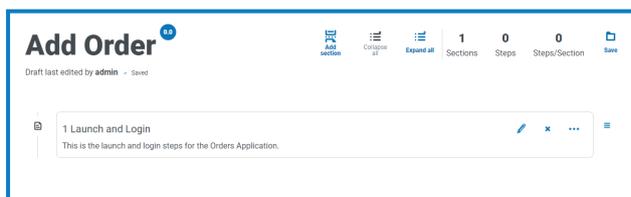
新しいプロダクションを作成したばかりで、セクションを追加する場合は、手順2に進みます。

 サインオフ用に送信されたプロセス定義を編集することはできません。[オプション]をクリックすると、**定義を編集**オプションが無効になります。詳細については、「[プロセス定義のサインオフ ページ33](#)」を参照してください。

1. [プロセス定義] ページで、目的のプロセスの横にある [オプション] をクリックし、**定義を編集** をクリックします。
定義を編集] ページが表示されます。
2. **セクションを追加** をクリックします。
セクションを作成] パネルが表示されます。



3. 作成するセクションの名前と任意の説明を入力します。または、**テンプレート**] をクリックして、セクションのテンプレートを選択できます。
4. **保存**] をクリックします。
セクションがプロセス定義に追加されます。



セクションを追加していく際は、セクションを必要な場所にドラッグすることで、順序を変更できます。セクションの横にあるアイコンを使用すると、セクションの編集、テンプレートへのエクスポート、またはプロセス定義からの削除を行うことができます。

5. このプロセスを繰り返して、さらにセクションを追加します。

これで、セクションにステップを追加する準備ができました。「[ステップ 下](#)」を参照してください。

6. [\[定義を編集\] ページ](#)で [\[保存\]](#) をクリックして、プロセス定義にセクションをコミットします。

ステップ

ステップとは、人間の作業者がビジネスプロセスを実行するために行うタスクです。これは、ユーザー名の入力、パスワードの入力、ログインボタンのクリックなどのアクションで、認証情報が正しいかどうかのチェックを判断する作業です。使用できるステップは4種類あります。

- **アクション** – アプリケーションのアクションを定義できます。
- **判断** – 真/偽または複数の条件を挿入できます。
- **メール** – プロセスにメールステップを含めることができます。
- **オブジェクト** – Blue Prismオブジェクトをプロセス定義に追加できます。

アクション

アクションは、データをフィールドに入力したり、ボタンをクリックしたり、アプリケーションを閉じたりなど、ユーザーが画面で実行するステップを設定する場合に使用します。

The screenshot shows the 'Create action step 1.1' form. On the left, there are five dropdown menus: 'Application *', 'Screen name *', 'Action *', 'Element name *', and 'Route to *'. The right side has an image upload section with a 'Drop or paste the image' instruction and a 'Max file size: 5MB' limit. Below that is a 'Description/summary' text area with a rich text editor toolbar (bold, italic, underline, link, text color) and a '500 Characters remaining' indicator. At the bottom of the right section are 'Create another' and 'Save' buttons.

アクションステップは、次のフィールドを使用して構成されます。

- **アプリケーション** – ドロップダウンから必要なアクションを選択します。現在定義されている各アプリケーションを使用できます。
- **画面名** – アクションが発生するアプリケーション内の画面の名前。スクリーン名の入力を開始すると、以前に作成した推定される名前のリストが表示されます。既存のスクリーン名を再利用する場合は、リストから選択できます。新しい名前の場合、名前を入力して次のフィールドに移動し、新しい画面名を作成します。

- **アクション** – ステップが実行するアクションのタイプ:
 - **入力** – フィールドにデータを入力します。
 - **キーを押す** – キーボードのキーを押します。
 - **読み取り** – フォームまたはフィールドからデータを読み取ります。
 - **選択** – ドロップダウンメニュー項目などのオプションを選択します。
 - **起動** – アプリケーションを起動します。
 - **閉じる** – アプリケーションを閉じます。
 - **ドラッグアンドドロップ** – 2つのアプリケーション間でデータ項目を移動できます。
 - **クリック** – ボタンまたはファイルメニュー項目を押します。
 - **ホールドをクリック** – 画面上のボタンまたは項目をクリックしてホールドします。
 - **リリースをクリック** – [ホールドをクリック]アクションによって現在ホールドされているボタンまたは項目をリリースします。
 - **トリプルクリック** – 画面上のボタンまたは項目をトリプルクリックします。
 - **ダブルクリック** – 画面上のボタンまたは項目をダブルクリックします。
 - **右クリック** – 画面上のボタンまたは項目を右クリックします。
 - **終了** – 例外に従ってアプリケーションを終了します。
 - **カスタム** – [カスタム名]フィールドに名前を入力して、カスタムアクションを作成できます。
- **要素名** – 自動化の開発者が自動化と連携するフィールドを認識できるようにする要素の名前を入力します。たとえば、ユーザー名、パスワード、ログインボタンなどです。
- **順路** – ステップの完了時の動作を決定します。
 - **次のステップ** – プロセスの次のステップに移動します。
 - **TBC** – 必要なステップがまだ構成されていない場合に役立つプレースホルダー。
 - **終了** – プロセスの終了。各プロセスは、終了まで進むステップで終わる必要があります。
- **画像** – フィールドとボタンを示すアプリケーションのスナップショットを作成します。自動化の開発者は、ビルド中にこれをレビューして、アプリケーション内の正しい画面上に存在することを確認できます。またこれにより、フィールドやボタンを正しく認識できるか確認できます。
- **説明/サマリー** – ステップの任意の説明。

プロセスの次のステップをすばやく追加するには、保存する前に **別に作成**]を選択します。 **保存**]をクリックするとダイアログが更新され、アクションをすばやく構成できます。

判断

複数の結果が利用可能な場合、どの選択肢を選ぶかを決定します。プロセスは次のステップまたは別の定義されたステップに進むことができます。以下の例では、ログインボタンを押した後に判断が追加されています。正しくないユーザー名またはパスワードのダイアログが表示されるかどうか判断されます。どちらも表示されない場合は、次のステップの実行について判断する必要があります。

The screenshot shows the configuration interface for a decision step in Blue Prism. It is divided into three main sections: 1. 'What kind of decision are you making?' with radio buttons for 'True/false' (selected) and 'Custom choice'. 2. 'On true' with radio buttons for 'Route to' (selected) and 'Exception', and a dropdown menu for 'Route to' showing 'TBC'. 3. 'On false' with radio buttons for 'Route to' (selected) and 'Exception', and a dropdown menu for 'Route to' showing '2.1 Click New Order'. A central text area contains the decision name 'Incorrect Username or Password' and a description/summary: 'Either an incorrect username or password has been entered into the Login Screen of the Order Application'. There is also an 'Upload' button and a 'Drop or paste the image' area with a 'Max file size: 5MB' limit.

判断ステップは、次のフィールドを使用して構成されます。

- **判断のタイプ** – 判断に利用できるオプション。真/偽、またはカスタム選択のいずれかです。
- **選択肢のリスト** – 利用可能なオプション。選択後、選択の結果が発生したときの動作を設定します(指定したステージへの進行など)。

 決定ステップごとに最大 15 のカスタムオプションを追加できます。

メール

ビジネスプロセスにメールの送信が含まれる場合は、メールステップで内容と受信者を設定します。

Create email step 1.5 Reset form Close drawer

To *
Separate with (,) semi-colon.

Cc
Separate with (,) semi-colon.

Bcc
Separate with (,) semi-colon.

Subject *

Body *
500 Characters remaining

Description
B / I / U / A
500 Characters remaining

Route to *
Next step

✕ Create another

Save

オブジェクト

Blue Prismビジネスオブジェクトをプロセスキャプチャに組み込みます。

Create object step 1.6

Environment *

Utility *

Action *

Next step

Max file size: 5MB

Upload

Notes

B / I / U /  / 

500 Characters remaining

Create another

Create step

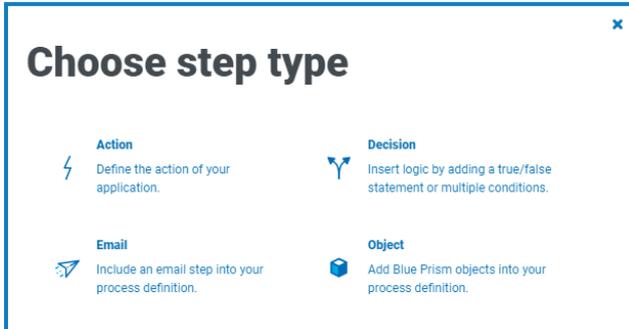
オブジェクトステップは、次のフィールドを使用して構成されます。

- **環境** - ビジネスオブジェクト/ユーティリティファイルがあるBlue Prism環境。
- **ユーティリティ** - 自動化の開発者が必要なアクションを呼び出すために使用するビジネスオブジェクト/ユーティリティファイルの名前。
- **アクション** - ビジネスオブジェクト/ユーティリティファイルから開発者が使用する必要なアクション。
- **順路** - ステップの完了時の動作を決定します。

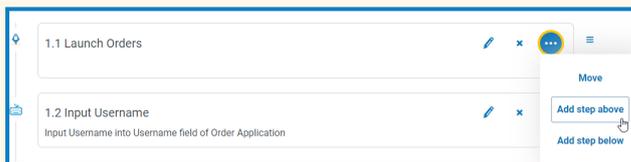
プロセス定義にステップを追加する

1. プロセスの [定義を編集] ページから、プロセス定義の目的のセクションに移動し、セクション内の省略記号アイコンをクリックして [ステップを作成] を選択します。

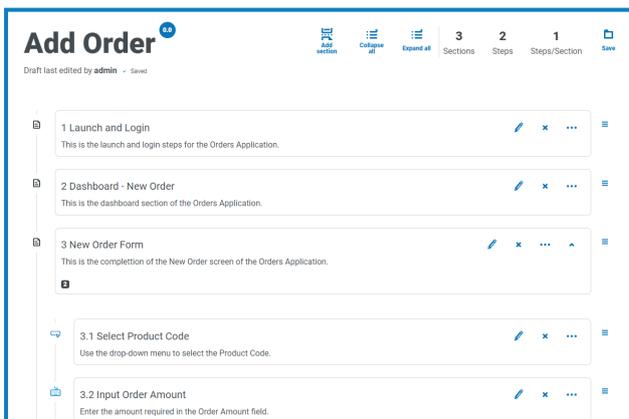
[ステップタイプを選択] ダイアログが表示されます。



また、既存のステップ内の省略記号アイコンをクリックし、[上にステップを追加] または [下にステップを追加] を選択することで、既存のステップの上下にステップを追加することもできます。



2. 目的のステップタイプを選択します。
 - アクション
 - 判断
 - メール
 - オブジェクト
3. ステップを設定します。
4. 完全なプロセスを構築するまで、必要な手順をすべて追加して定義します。



ビジネスプロセスの最終ステップは、アプリケーションを終了するために必要なステップである必要があり、最終ステップには終了までの順路を含める必要があります。

5. **保存**]をクリックして、プロセス定義のマイナーバージョンを作成します。詳細については、「バージョン管理」を参照してください。

[マイナーを増やす]パネルが表示されます。

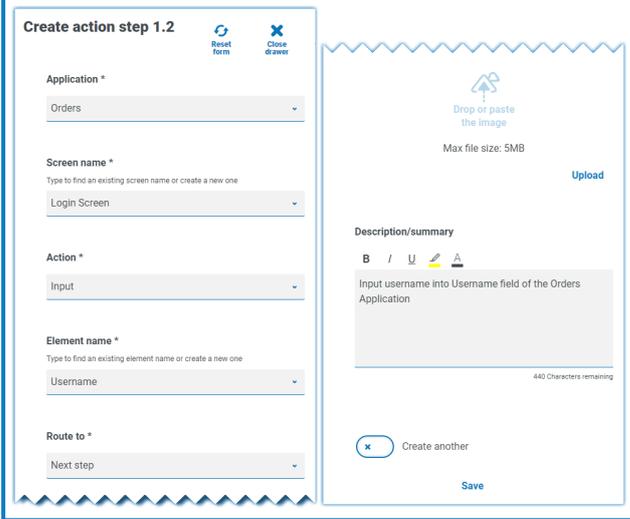
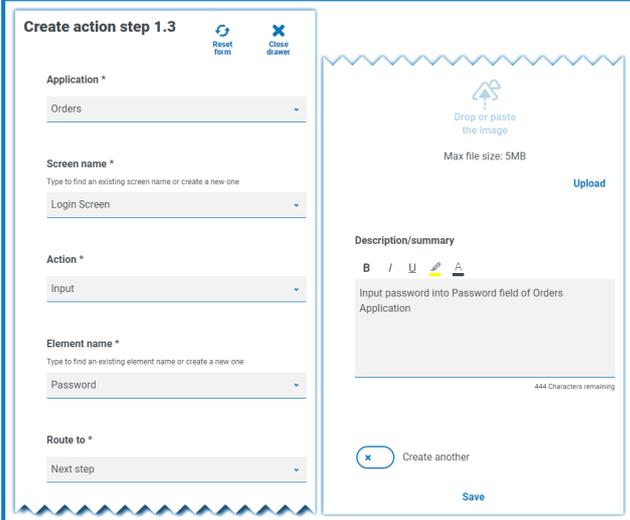
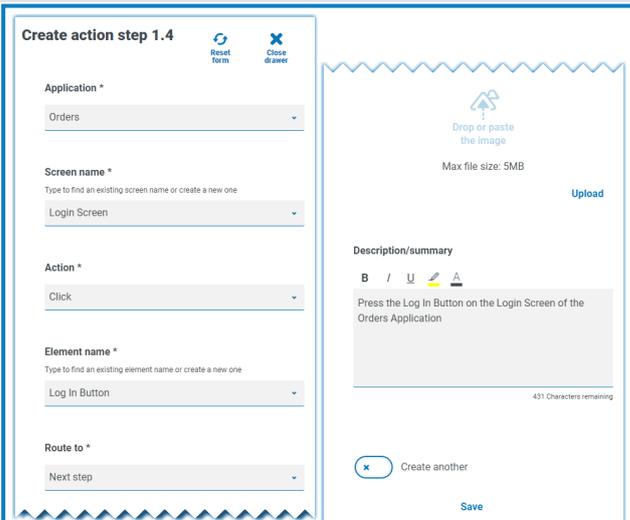
6. プロセスの進行状況を通知するための説明を入力し、**保存**]をクリックします。

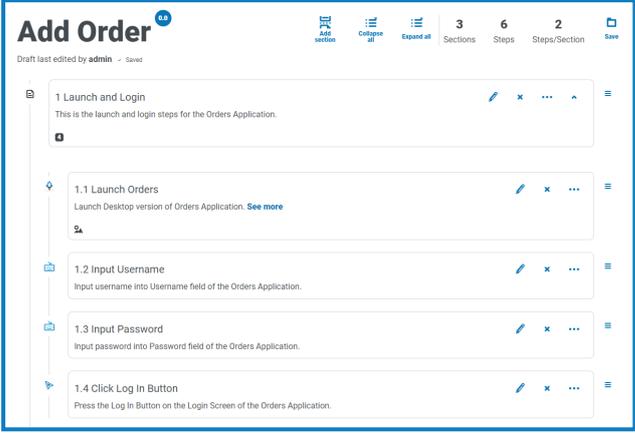
[プロセス定義]画面が表示され、プロセス定義の最新バージョンが表示されるように更新されます。

例: ログインセクションを追加する

この例は、簡単なアプリケーションログインのステップを作成する方法を示しています。

ステップ	サンプル画面	詳細
1		<p>アプリケーションを起動</p> <p>ログイン画面で選択したアプリケーションを開き、次のステップに進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクション – 起動 • アプリケーション – 必要に応じて • 順路 – 次のステップ

ステップ	サンプル画面	詳細
2		<p>ユーザー名を入力</p> <p>[ログイン]画面の [ユーザー名]フィールドにユーザー名を入力し、次のステップに進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクション – 入力 • アプリケーション – 必要に応じて • 画面名 – ログイン画面 • 要素名 – ユーザー名 • 順路 – 次のステップ
3		<p>パスワードを入力</p> <p>[ログイン]画面の [パスワード]フィールドにパスワードを入力し、次のステップに進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクション – 入力 • アプリケーション – 必要に応じて • 画面名 – ログイン画面 • 要素名 – パスワード • 順路 – 次のステップ
4		<p>[ログイン]ボタンをクリック</p> <p>[ログイン]ボタンをクリックして、次のステップに進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクション – クリック • アプリケーション – 必要に応じて • 画面名 – ログイン画面 • 要素名 – ログインボタン • 順路 – 次のステップ

ステップ	サンプル画面	詳細
5		<p>プロセス完了</p> <p>必要なアクションがすべて完了し、の 定義を編集] ページに一覧表示されます。</p>

セクションとステップを再配置する

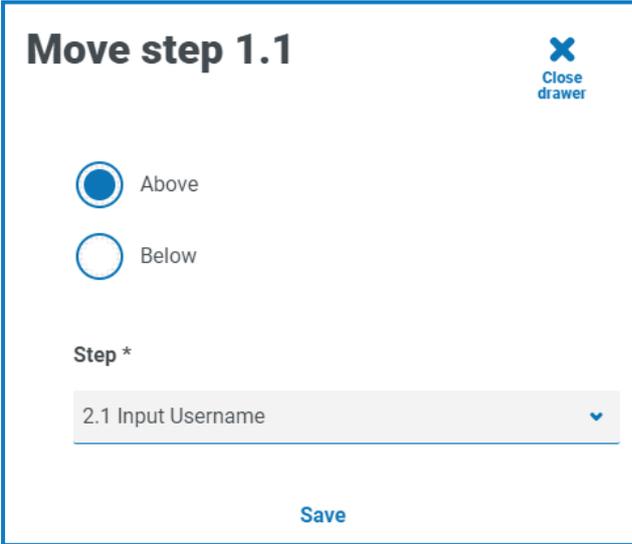
ステップを現在のセクションの新しい位置にドラッグするか、新しいセクションにドラッグできます。また、セクションをドラッグして並べ替えることもできます。

セクションまたはステップをクリックして新しい位置にドラッグするには:

1. セクションまたはステップの横にある **≡** (グラブ) アイコンをクリックしてホールドします。
2. セクションまたはステップを新しい位置にドラッグします。

セクションまたはステップを特定の位置に移動するには:

1. セクションまたはステップの省略記号アイコンをクリックし、**移動]** をクリックします。
移動] (セクションまたはステップ) ダイアログが表示されます。



2. **上へ]** または **下へ]** をクリックし、次に **セクション]** または **ステップ]** ドロップダウン矢印をクリックして、ポジションを選択します。ドロップダウンリストには、選択したセクションまたはステップを上または下に移動できるプロセス定義で使用可能なすべてのセクションとステップが含まれます。
3. **保存]** をクリックします。

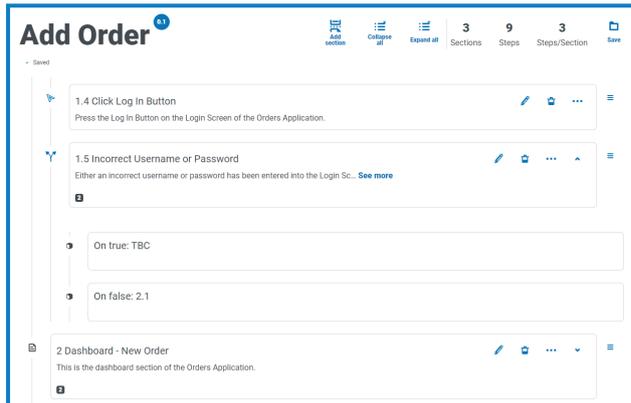
セクションまたはステップが指定された位置に移動します。

プロセス定義に例外を追加する

例外をプロセスに追加して、プロセス実行時に予期しない事態が発生した場合に備えることができます。以下のプロセスに進む前に、少なくとも1つの例外を作成する必要があります。

例外の作成についての詳細は、「[例外 ページ39](#)」を参照してください。

1. [プロセス定義] ページで、目的のプロセスの横にある [オプション] をクリックし、 [定義を編集] をクリックします。
[定義を編集] ページが表示されます。
2. 例外が必要なステップを見つけてします。



3. ステップの横にある編集アイコン  をクリックします。
[編集] ページに、ステップタイプ([編集判断] ページなど) が表示されます。

4. この選択に必要な例外を選択します。以下を行うことができます。

- 既存の例外を使用する – ドロップダウンリストから例外を選択します。

以下の例では、正しくないユーザー名またはパスワードのステップに、「提供された不正な認証情報」の例外が追加されています。

The screenshot shows a configuration window for a decision. It is divided into three main sections: 'What kind of decision are you making?', 'On true', and 'On false'.
1. 'What kind of decision are you making?':

- Type of decision: True/false, Custom choice
- Image upload area: 'Drop or paste the image', 'Max file size: 5MB', 'Upload' button
- Decision name *: 'Incorrect Username or Password'
- Description/summary: 'Either an incorrect username or password has been entered into the Login Screen of the Order Application' (394 Characters remaining)

2. 'On true' (highlighted with a red box):

- Choose an option: Route to, Exception
- Exception *: 'E002: Incorrect Credentials Supplied' (dropdown menu)

3. 'On false':

- Choose an option: Route to, Exception
- Route to *: '2.1 Click New Order' (dropdown menu)

A 'Save' button is located at the bottom center of the window.

- **新しい例外を入力する** – 必要な例外がまだ作成されていない場合、**[新しい例外を追加]**を選択し、新しい名前を入力して、例外のスケルトンを作成できます。

1 What kind of decision are you making?

Type of decision

True/false

Custom choice

Drop or paste the image
Max file size: 5MB
Upload

Decision name *

Incorrect Username or Password

Description/summary

B / U / A

Either an incorrect username or password has been entered into the Login Screen of the Order Application

396 Characters remaining

1.1 On true

Choose an option

Route to

Exception

Exception *

Add new exception

New exception name *

The exception will be created, however, you will still need to add sections and steps

1.2 On false

Choose an option

Route to

Exception

Route to *

2.1 Click New Order

Save

詳細情報については、「[例外の保留下](#)」を参照してください。

5. **保存**]をクリックします。

例外の保留

[新しい例外を追加]を選択した場合、ステップを保存すると、プロセス定義のステップにフラグが追加されて、まだ入力されていない例外を参照します。

1.5 Incorrect Username or Password

Either an incorrect username or password has been entered into the Login Sc... [See more](#)

On true: E002
[Click here](#) to go to exception

On false: 1.2

フラグの付いたステップの **[ここをクリック]** リンクをクリックし、「[例外 ページ39](#)」の説明に従って例外を構成します。

プロセス定義のサインオフ

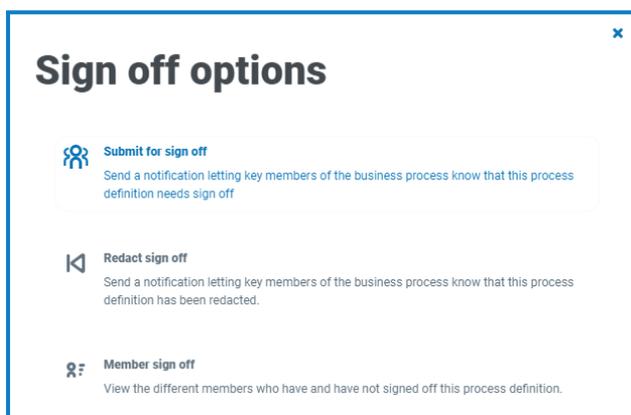
自動化ライフサイクルプラグインでは、プロセス定義所有者の役割を持つユーザーがサインオフ手順を開始できます。このワークフローは、通常、ビジネスプロセス内のすべてのセクションとステップがキャプチャされた場合に発生します。

サインオフ用に送信

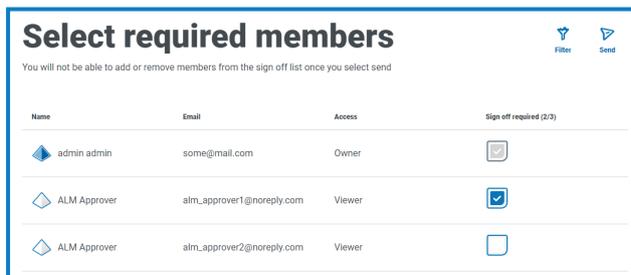
プロセス定義をすべて設定すると、組織内の該当する担当者にサインオフしてもらうようプロセス定義を送信できます。各ユーザーは、プロセス定義のサインオフ時に選択できるよう、有効なログインアカウントを持っている必要があります。

1. [プロセス定義] ページで、目的のプロセスの横にある [オプション] をクリックし、[サインオフオプション] をクリックします。

[サインオフオプション] ダイアログが表示されます。



2. [サインオフ用に送信] をクリックします。
必要なメンバーを選択] ページが表示されます。



3. プロセス定義のサインオフを担当するメンバーを選択します。サインオフプロセスを再編集しない限り、承認のためにプロセス定義を送信した後は、署名者を変更することはできません。
4. [送信] をクリックします。
選択されたユーザーには、プロセス定義をサインオフする必要があることを知らせる通知が送信されます。

プロセス定義をサインオフする

ビジネスプロセスの所有者がサインオフ手順を開始すると、必要なメンバーは、サインオフが必要であることを知らせる製品内通知を受け取ります。

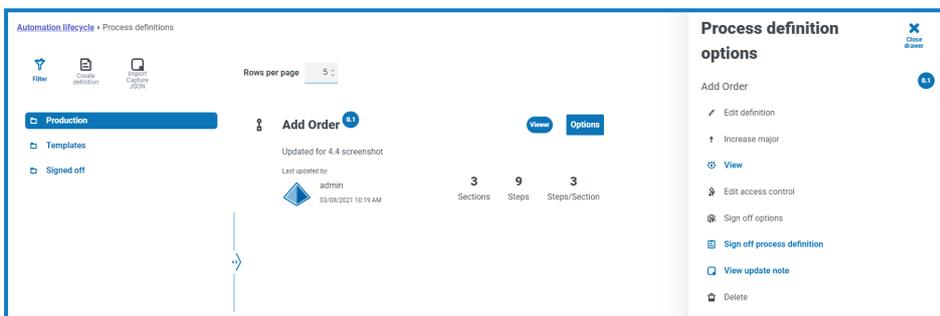
サインオフされると、サインオフプロセスが完了するまで定義を編集するオプションを使用できます。すべてのメンバーが承認しサインオフすると、このオプションは使用できなくなります。その時点では、プロセス定義の所有者のみがサインオフを編集できます。

プロセス定義をサインオフするには:

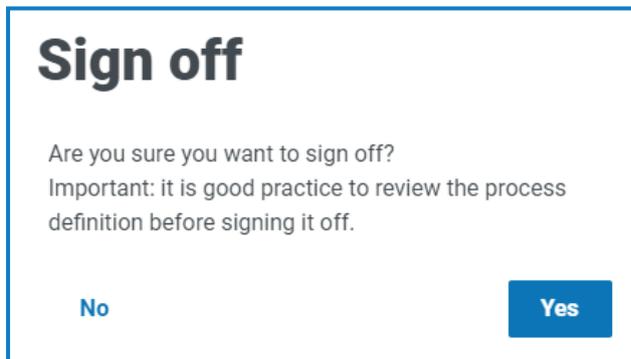
1. 自動化ライフサイクル] ページで、**プロセス定義]** をクリックしてすべての定義を表示します。

 プロセス定義のリストをサインオフが必要なものに限定するには、**フィルター]** をクリックし、**サインオフ済み]** フィルターを **必須]** に設定します。

2. 目的のプロセスの横にある **オプション]** をクリックし、**プロセス定義をサインオフ]** をクリックします。



サインオフ] ダイアログが表示され、ベストプラクティスに従ってプロセス定義をレビューしたことで、サインオフすることを確認するメッセージが表示されます。



3. **はい]** をクリックします。

プロセス定義がサインオフされ、通知メッセージが表示されます。ビジネスプロセス所有者にも通知が送信されます。

サインオフを再編集

プロセス定義がレビューのために送信されると、編集はロックされます。このプロセスを編集できるのは、所有者のみです。ただし、他のすべてのレビューアがレビューを完了していない場合に限り、レビューアは自分のレビューを編集できます。すべてのレビューアがサインオフプロセスを承認または却下したら、編集または承認によってロックを解除できるのは、プロセス定義の所有者のみです。

レビューを編集するには:

 サインオフしたプロセス定義のリストを制限するには、**[フィルター]**をクリックし、**[サインオフ済み]**フィルターを**[承認]**に設定します。

1. **[プロセス定義]** ページで、目的のプロセスの横にある **[オプション]** をクリックし、**[サインオフを再編集]** をクリックします。

[プロセス定義を再編集中] ダイアログが表示され、編集を確認するように求められます。

2. **[はい]** をクリックします。

サインオフが編集され、通知メッセージが表示されます。

レビュープロセスを編集するには – プロセス定義所有者が行う必要があります。

1. **[プロセス定義]** ページで、目的のプロセスの横にある **[オプション]** をクリックし、**[サインオフオプション]** をクリックします。

[サインオフオプション] ダイアログが表示されます。

2. **[サインオフを再編集]** をクリックします。

[定義を編集] ダイアログが表示され、編集を確認するように求められます。

3. **[はい]** をクリックします。

サインオフが編集され、通知メッセージが表示されます。

メンバーのサインオフ

このオプションでは、サインオフを追跡し、各メンバーのサインオフのステータスを確認できます。**[]** ページには、メンバー名、メールアドレス、サインオフステータス、サインオフ日時が表示されます。サインオフステータスは次の3つのいずれかになります。

- **サインオフ待ち** – メンバーはまだサインオフしていません。
- **編集されたサインオフ** – メンバーはサインオフしましたが、最初のサインオフを編集することを選択しました。
- **サインオフ済み** – メンバーがサインオフしました。

Member sign off status				
Here you can check the sign off status of the members assigned to this definition				
Name	Email	Access	Sign off status	Sign off date/time
 admin admin	some@mail.com	Owner	✓ Signed off	26/01/2021 13:36:18
 ALM Approver	alm_approver1@noreply.com	Contributor	✗ Redacted sign off	26/01/2021 13:38:25
 ALM Approver	alm_approver2@noreply.com	Viewer	✓ Signed off	26/01/2021 13:39:07

プロセス定義は、すべてのメンバーがプロセスをサインオフするまで、**[プロセス定義]** ページの **[サインオフ済み]** フォルダーに表示されません。メンバーがサインオフを編集すると、プロセス定義が実稼働フォルダーに表示されます。

メンバーのサインオフを表示するには:

1. [プロセス定義] ページで、目的のプロセスの横にある **[オプション]** をクリックし、 **[サインオフオプション]** をクリックします。
[サインオフオプション] ダイアログが表示されます。
2. **[メンバーのサインオフ]** をクリックします。
[メンバーのサインオフステータス] ページが表示されます。

その他の機能

プロセス定義を表示、編集するときには、以下に説明するように、その他の多くの機能を使用できます。

- 各セクションをクリックして、展開したり折りたたんだりします。
- **[すべて折りたたむ]** アイコンと **[すべて展開]** アイコンは、すべてのセクションを展開または折りたたむことができます。

上記の機能に加えて、プロセス定義の編集時に次の機能を使用できます。

- ステップまたはセクションの横にある **[≡]** アイコンをクリックしてつかむと、アイテムをドラッグアンドドロップして、順序を更新できます。
- セクションまたはステップのアイコンを使用すると、ステップまたはセクションを編集、テンプレートにエクスポート(セクションのみ)、または削除できます。セクションを削除すると、その中にあるすべてのステップが削除されます。
- ビジネス定義を保存せずにそのままにすると、変更内容は下書きとして保存されます。これらは、次回定義を編集するために戻ったときに利用できます。

プロセス定義を削除する

たとえば、バージョン0.3で使用していた構造に戻すために、バージョン0.4のプロセス定義を削除したり、古いプロセス定義を完全に削除したりするなど、プロセス定義のすべてのバージョンを完全に削除できます。削除できるのは、自分がオーナーとして定義されていて、他のユーザーによって編集されていない(ロックされたプロセス定義として表示されていない)プロセス定義のみです。

⚠ プロセス定義を削除すると、そのプロセス定義は完全に削除されます。削除したプロセス定義は復元できません。

プロセス定義を削除するには:

1. [プロセス定義] ページで、目的のプロセスの横にある **[オプション]** をクリックし、 **[削除]** をクリックします。
そのバージョンを削除することを確認するメッセージが表示されます。
2. **[はい]** をクリックします。
選択したものが以下の場合:
 - プロセス定義のバージョン0.1または0.0の場合は、完全に削除されます。
 - プロセス定義のバージョン0.2以上の場合は、そのバージョンが削除され、プロセス定義が以前のバージョンに戻ります。
3. 必要に応じて、プロセス定義が完全に削除されるまで、ステップ1と2を繰り返します。

プロセス定義] ページでフィルターを使用する

フィルターを使用すると、選択した条件に基づいて特定のプロセス定義を簡単に検索できます。

1. [プロセス定義] ページで、[フィルター] をクリックして [フィルター] パネルを開きます。
2. 切り替えを使用して必要なフィルターをオンにし、情報を入力して必要なプロセス定義を見つけます。同時に複数のフィルターを適用できます。

使用可能なフィルターは次のとおりです。

フィルター	説明
プロセス名	プロセス定義の名前、または名前の一部を入力します。
バージョン	プロセス定義のバージョン番号を入力します。部分一致に対してもフィルタリングします。たとえば、「1」を入力すると、1.0や10などのバージョンを持つプロセス定義も表示されます。
セクション	プロセス定義に表示されるセクションの名前、または名前的一部分を入力します。
共同作成者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名的一部分を入力します。
所有者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名的一部分を入力します。
ロック者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名的一部分を入力します。
最新	<p>プロセス定義の最新バージョンまたは以前のバージョンのみを表示するかどうかを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい - プロセス定義の最新バージョンのみを表示します。これはデフォルト設定です。 • いいえ - プロセス定義の以前のバージョンのみを表示し、最新バージョンは表示しません。 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> デフォルトでは、最新]のフィルターはすでにオンになっています。プロセス定義のすべてのバージョンを表示する場合は、オフにできます。</p> </div>
更新者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名的一部分を入力します。
更新日時	<p>日付範囲を次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最初のフィールドで、最も早い日付を選択します。 • 2番目のフィールドで、最も遅い日付を選択します。 • 必要に応じて、時間フィールドを調整します。デフォルトで、最初の日付の時刻は00:00:00、最後の日付の時刻は23:59:59になっているため、丸一日が含まれることになります。 <p>これにより、この期間中に更新されたすべての例外が表示されます。</p>
プロセスアクティブ	<p>次のオプションからプロセス定義のアクティブステータスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい - アクティブなプロセス定義を表示します。関連する廃止されたビジネスプロセスがないプロセス定義です。 • いいえ - アクティブではないプロセス定義を表示します。関連するビジネスプロセスが管理者によって廃止されたプロセス定義です。

フィルター	説明
サインオフ	次のオプションからサインオフ設定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし – サインオフのためにまだ送信されていないプロセス定義を表示します。 必須 – サインオフのために送信済みだが、レビュー担当者によってまだ承認されていないプロセス定義を表示します。 承認済み – サインオフおよび承認済みとして送信されたプロセス定義を表示します。
サインオフステータス	次のオプションからサインオフステータスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> はい – 1人または複数のメンバーがサインオフしたプロセス定義を表示します。 いいえ – まだ誰からもサインオフされていないプロセス定義を表示します。
自分のアクセス権	ドロップダウンリストからアクセスレベルを選択します。オプションは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 所有者 – 自身が所有者となっているプロセス定義を表示します。 共同作成者 – 自身が共同作成者であるプロセス定義を表示します。 ビューアー – 自身がビューアーとなっているプロセス定義を表示します。 アクセスレベルの詳細は、「 プロセス定義を追加する ページ17 」を参照してください。

プロセス定義] ページの情報は、すぐにフィルターされます。

 フィルターを設定済みで、フィルタリングされていない情報を再度表示する場合は、必要なフィルターをオフにするか、フィルター内の設定をすべて削除して空白にします。

3. **[ドローを閉じる]** をクリックして、**[フィルター]** パネルを閉じます。

例外

ALMの [例外] オプションを使用すると、例外とその属性を作成できます。

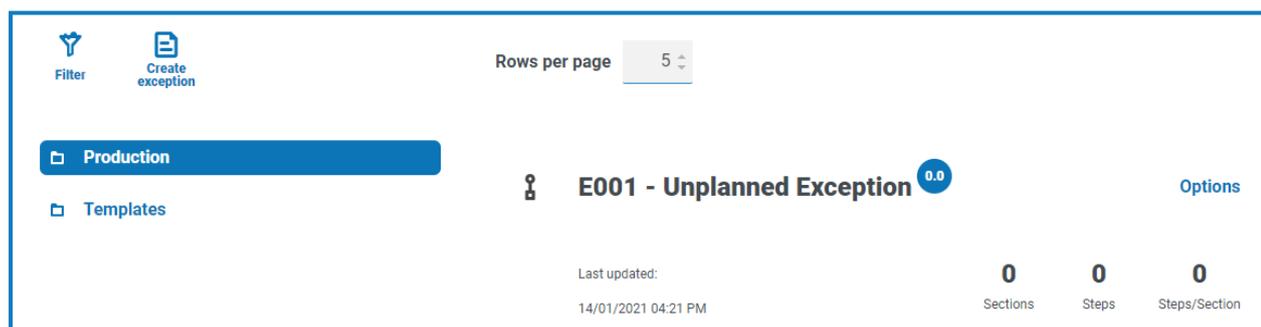
例外を作成する

1. [例外] ページで [例外を作成] をクリックします。
[例外を作成] ページが表示されます。例外コードが自動的に割り当てられ、システムによって入力されます。
2. [名前] フィールドに自動的に割り当てられます。
3. [例外を作成] をクリックします。
例外が作成されたことを示す通知が表示されます。
4. [セクションを追加] をクリックして、この例外が発生した場合に必要なセクションと手順を追加します。
[セクションを作成] パネルが横からスライドして出ます。
5. 必要な情報を入力し、[セクションを作成] パネルの下部にある [保存] をクリックします。
セクションが例外に表示されます。
6. [保存] をクリックして、例外への変更を保存します。
[マイナーを増やす] パネルが横からスライドして出ます。
7. 例外への変更に関するノートを入力し、[保存] をクリックします。
変更が保存され、例外のバージョン番号が増分されます。

例外は、Process Definition Documentの手順で使用できます(「[プロセス定義に例外を追加する ページ30](#)」を参照)。

デフォルトの例外

最初の例外として自動的に作成されるデフォルトの [計画外のシステム例外] は、予期しないことが起こった場合にすべてキャッチするために使用します。



これはキャッチオール例外であるため、終了プロセスをサポートするために新しいアプリケーションを追加するたびに変更する必要があります。後続の例外は、ビジネスプロセスと発生したエラーに特有なものである必要があります。

この例では、不正な認証情報が追加されたときの処理用に、以下が作成されます。

Create exception

Define the details of your desired exception

Exception code *

Name *

70 Characters remaining

[Create exception](#)

Create section 1

X
Close drawer

New
Template

Name *

Description

B / U / / **A**

Incorrect Username or Password has been supplied for the Orders Application.

424 Characters remaining

X
Create another

[Save](#)

例外を削除する

例外] ページのフィルターを使用する

フィルターを使用すると、選択した条件に基づいて特定の例外を簡単に検索できます。

- 例外] ページで、**フィルター]**をクリックして **フィルター]**パネルを開きます。
- 切り替えを使用して必要なフィルターをオンにし、情報を入力して必要な例外を見つけます。同時に複数のフィルターを適用できます。

使用可能なフィルターは次のとおりです。

フィルター	説明
例外コード	例外のコード全体または一部を入力します。
例外名	例外の名前、または名前の一部を入力します。

フィルター	説明
バージョン	例外のバージョン番号を入力します。部分一致に対してもフィルタリングします。たとえば、「1」を入力すると、1.0や10などのバージョンを持つ例外も表示されます。
プロセス	例外が関連付けられているプロセス定義の全体または部分名を入力します。
最新	<p>例外の最新バージョンを表示するか、以前のバージョンを表示するかを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> はい – 例外の最新バージョンのみを表示します。これはデフォルト設定です。 いいえ – 例外の以前のバージョンのみを表示し、最新バージョンは表示しません。 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> デフォルトでは、最新のフィルターはすでにオンになっています。例外のすべてのバージョンを表示する場合は、これをオフにできます。</p> </div>
セクション	例外に表示されるセクションの名前、または名前の一部を入力します。
ロック者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名の一部を入力します。
更新者	ユーザーのユーザー名、またはユーザー名の一部を入力します。
更新日時	<p>日付範囲を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のフィールドで、最も早い日付を選択します。 2番目のフィールドで、最も遅い日付を選択します。 必要に応じて、時間フィールドを調整します。デフォルトで、最初の日付の時刻は00:00:00、最後の日付の時刻は23:59:59になっているため、丸一日が含まれることになります。 <p>これにより、この期間中に更新されたすべての例外が表示されます。</p>

例外] ページの情報は、すぐにフィルターされます。

 フィルターを設定済みで、フィルタリングされていない情報を再度表示する場合は、必要なフィルターをオフにするか、フィルター内の設定をすべて削除して空白にします。

3. **[ドローを閉じる]** をクリックして、**[フィルター]** パネルを閉じます。

テンプレート

テンプレートは、自動化ライフサイクルプラグインのプロセス定義と例外オプションの両方にあります。テンプレートを使用すると、プロセス定義または例外のセクションを反復可能なブロックとして再利用できます。たとえば、ログインセクションは複数のプロセスで使用されることがあり、テンプレートを使用すれば、それぞれのログインセクションを再作成する必要はありません。

セクションをテンプレートとしてエクスポートする

1. **定義を編集]** ページで、該当するセクションの省略記号アイコンをクリックし、**[エクスポート]** をクリックします。

テンプレートに**[エクスポート]** パネルが横からスライドして出て、選択したセクションの名前と説明が表示されます。

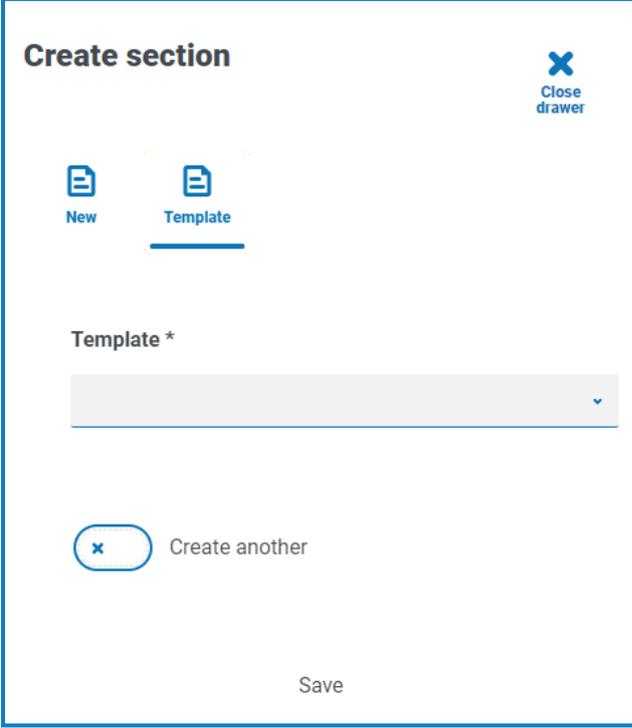
The screenshot shows the 'Adding orders' process definition in Blue Prism. The main workspace displays a flowchart with four steps: '1 Launch and Login', '1.1 Launch Orders', '1.2 Input Username', and '1.3 Input Password'. The '1 Launch and Login' step is selected, and its details are shown in the right-hand 'Export to template' panel. The panel includes a 'Name' field with the value 'Launch and Login', a 'Description' field with the text 'This is the Launch and login steps for the Blue Prism Order Application', and a 'Save' button. The description field has a character count of 435 characters remaining.

2. 必要に応じて名前と説明を更新します。
3. **保存]** をクリックします。

セクションがテンプレートとして保存されます。

プロセス定義でテンプレートを使用する

1. 通常の方法で定義を作成します(「[ビジネスプロセスと新しいプロセス定義を作成する](#)」を参照)。
2. セクションを作成するときは、新しいセクションを最初から作成するのではなく、**テンプレート**]を選択します。



The screenshot shows a 'Create section' dialog box. At the top right is a 'Close drawer' button. Below the title, there are two options: 'New' and 'Template'. The 'Template' option is selected and underlined. Below this is a 'Template *' dropdown menu. At the bottom, there is a 'Create another' button with a close icon and a 'Save' button.

3. ドロップダウンリストから目的のテンプレートを選択します。
4. **保存**]をクリックして、保存したテンプレートからプロセスのセクションを作成します。

 テンプレートは、**例外**でも同じ方法で使用できます。

テンプレートを削除する

トリガー通知

自動化ライフサイクル全体の特定のイベントについてユーザーに通知するトリガーがいくつか組み込まれています。これらの通知を表示するには、画面の右上隅にあるベルアイコンを選択します。通知がない場合、通知トレイは空になります。またこのアイコンは、今後のシステム通知の確認にも使用されます。

次の表で各通知タイプについて説明します。

通知	トリガー	受信者
プロセス定義のサインオフ	ビジネスプロセス所有者はプロセス定義サインオフを開始します。	プロセス定義をサインオフする必要があるメンバー。
プロセス定義がサインオフされました	必要なビジネスプロセスメンバー全員がプロセス定義をサインオフしました。	ビジネスプロセス所有者。
プロセス定義のサインオフが編集されました	必要なビジネスプロセスメンバーが、以前にサインオフしたプロセス定義を編集しました。	ビジネスプロセス所有者。
ビジネスプロセス所有者によるプロセス定義のサインオフ	ビジネスプロセス所有者が、サインオフプロセスを編集します。	プロセス定義をサインオフする必要があるメンバー。
必要なメンバー全員がサインオフしました	必要なビジネスプロセスメンバー全員がプロセス定義をサインオフしました。	ビジネスプロセス所有者。
プロセス定義が作成されました	プロセス定義が作成されました。	プロセス定義のメンバー。
プロセス定義が削除されました	プロセス定義が削除されました。	プロセス定義のメンバー。
ビジネスプロセスから削除されました	メンバーがビジネスプロセスから削除されました。	ビジネスプロセスから削除されたメンバー。